



皆さんのご厚意をいただき  
**ミニデイサービス  
準備すすむ**

10月19日の試験的ミニデイサービスに向けて準備が進んでいます。安全に心掛け、安心して体を休める為のベッド・簡易畳・車椅子等も揃いました。みなさんで作る食事の用具を整えたり、楽しくてリハビリにも良い体操も出来ました。最も大事なことは、お年寄りがこのデイサービスをご利用して下さることです。その為に民生委員さんも説明に回って下さっています。多くの皆様の応援をいただきなんとか出発出来そうです。

◇募集◇

当センターでは、ミニデイサービスの荷物運搬ボランティアを探しています。ワゴン車等をお持ちの方でご協力くださる方は事務所までご連絡下さい。

当センター主催  
「映画と講演の集い」に大きな関心  
三〇〇〇名を越える参加者  
去る九月八日(金)一宮スポーツ文化センターで行われました当センター主催「記録映画と講演の集い」には十代から八十代の方々三二八名がお集まり下さいました。いかに多くの方々が高齢者の問題に深く関心を寄せられているかが分かります。

◆「ドキュメンタリー映画・おてんとうさまがほしい」  
くくアルツハイマー症の妻を抱えた夫は映画の中で語るくく

「痴呆症でも、やっぱり二人の  
社会人として扱ってほしい」

夫が痴呆症の妻にカメラを向けた。老いてなお病むことへの戸惑いと悲しみや苦しみ、共に向き合っている姿が静かに、淡々と深く語りかけるこの映画を皆さんはどう受け止められたでしょうか。

会場の皆様から

- ◆介護する人次第で痴呆症の人も、人として生きられると思いました。
- ◆頭の先から足の先まで自分自身のこととして思っていたか、と考えさせられた。
- ◆初めてこういう会に参加し本当に良かったと思っています。はじめて「老いて病むこと」を考える事が出来ました。

◆講演「老いを生きる」  
くくサンビレッジ新生苑理事長石原美智子氏講演からくく

老いて生きる問題は  
自分自身のこととして

石原美智子さんは、介護をするということがどんなことをサンビレッジ新生苑での介護状況を紹介しながら、介護の本身、質について話されました。職員には実際にお年寄りになってもらい寝たきり状態やおむつの中の排泄等の体験をし、自分だったらどうしてほしいかを試みる。やはり、おむつは最後の手段。人間とシートとどちらが大切なのか、濡れたら変える解決を、と話される。職員には自主研修をすす

め自ら勉強の機会を与えている。また、徘徊の付き添いやお年寄りには欠かせない水分補給にも専門のパートさんが用意されている。どのようなサービスをどのようなように提供していくか。介護の質の問題は人材の育成であるとも言われる。そして、最後に老いることを自分自身のこととして一人一人が把握していくことが最も大切なことであると結ばれました。

夜間ケア(午後9時~10時)毎日3週間・協力会員さん3人で対応

以前から、夜のケアが必要だと思っており、私達も、どの時間帯にも対応できるのが望ましいと考えていました。「一人では無理でも、みんなでやれば出来るのではないか」私達は、定例会の場で度々話し合っておりました。

二十四時間ケアがあちこちで始まっております。

高浜市では来年度から、愛知県で初めての二十四時間対応型ヘルパー(巡回型)事業に取り組みます。住み慣れたところで安心して暮らせる街作りが早く進む事を願ってやみません。

◆みんなで力を出し合って  
諦めておられたAさん  
いつもお世話をされる方の都合が悪い間のケアということでした。複数のワーカーさんでお世話をさせていただけるなら、と訪問が始まりました。

Aさんは「多分受けてもらえないと思いがらお電話しました。」と話されました。

◆夜間のケア依頼  
頸椎損傷の障害をお持ちのAさんから、夜、安心して眠るために午後九時~十時までのケアをお願い出来ませんか、とお電話をいただきました。

◆自分で体が動かさないと必要不可欠なケア  
自由に体を動かす事が出来ないAさんは、終日ギャジベッドの上での生活であり、その為夜になるとベッドパットやシーツにはかなりのしわがよりあります。ご自分で体位交換が出来ない、その上筋肉は強ばっているAさんにとって、ほんの少しのしわも体に当たればずっとそのままで、ジンジンと痛くなり安眠はおろか褥瘡の原因にもなります。以前にもひどい褥瘡が出来、皮膚移植をされたとのことでした。Aさんにとって、毎日就寝前のベッド整備は必要不可欠であり夜間のケアは大切なものとなりました。

8月会員登録状況

協力会員	44人
利用会員	37人
賛助会員	110人
計	191人

8月活動状況

活動件数	11件
活動人数	23人
活動時間	152.5時間

◎ケア報生口